

第
67
号

C-STEP

シーステップ

人間を主役にした人材雇用開発

ニュース



実践報告 相談者の特性から必要な支援と「適職」を考える

一般社団法人おおさか人材雇用開発人権センター 事務局長 松本 秀樹

今回は、C-STEPの人材養成事業(人材スキルアップ定期コース・随時コース)と教育庁ハートフルオフィススーパーバイズ事業を通して、今年度(2024年度)就職した3名の事例を紹介し、就労支援のあり方を考えます。

■働き出しへのファーストステップ

まずは、C-STEPの人材スキルアップ定期コース(7月期)にエントリーし、修了したYさん(35才)の事例です。Yさんは今まで働いた経験が全く無く、「働くこと」をイメージできませんでした。高校在学中に友人間での人間関係が悪くなり、外出もできず家にひきこもりようになりました。高校を卒業してからも、10年以上ひきこもり生活を続けていましたが、5年前に地域の交流センターに自立に向けた相談に行きました。そこでは、ハローワークの就労相談に誘導されました。ハローワークで紹介状をもらい、企業面接へ行くよう言われましたが、自信がなく不安ばかりが募る中、どうしても行くことができませんでした。自力での就職活動に不安を抱えていたため、地域の地域就労支援センターに相談したところ、支援者から「C-STEP人材養成事業を活用したらどうか」と勧められ、スキルアップ定期コースにエントリーしました。C-STEPの人材スキルアップ定期コースでは、最初に座学を4日間行い、履歴書の書き方やビジネスマナー等を学びました。このスキルアップ定期コースには、Yさんと同じく職歴のない方も参加していました。他の人も同じ環境で頑張っていることを知り、自らも就労意欲を高めていきました。

座学を履修後、清掃会社で職場実習をしました。Yさんにとっては、初めての職場実習、また初めての労働体験ということもあり、最初はすごく緊張していました。しかし、指導いただいた方が分かりやすく教えてくださり、褒めていただいたので自信がつきはじめました。3日目には自ら積極的に「報・連・相」を行えるようになりました。職場実習最終日には、清掃会社の指導者から「Yさん、ここを最初の職場にしたらいいやん。まだ若いんやし、スタートアップの働き出しにしたらいいやん。ここで定年までと考えるんじゃなく、最初と考えるとどう?」と言ってくださいました。Yさんはその一言で気が楽になり、この会社で働く決意をしました。その後、就職面接を受け、正式採用となりました。

Yさんの場合、まず、就職に向けた知識と情報を学び、会社見学から職場実習を通じた体験によって、徐々に自信をつけるプロセスがなければ、採用には結びつくことは難しかったと思います。そして最後は、企業の「やる気を促す一言」が決定打になりました。私たちも個々の状況に応じて、スキルアップ定期コースへの誘導や職場体験実習を進めるなど、焦ることなく寄り添いながら支援することの大切さを再認識しました。

まだまだ慣れない中、Yさんは今日も仕事を頑張っています。

■自信からやりがいへ

二人目は、2023年度の人材スキルアップ定期コース(10月期)を修了したTさんです。Tさんは、軽度の知的障がいがあり、19歳で専修学校を

卒業後、就労移行支援事業所に通所しました。また、場面緘黙(ばめんかんもく)の特性により、コミュニケーションがうまく取れません。場面緘黙とは、自分から話す場面を人に見られたり、聞かれたりすることに対して、強い不安や恐怖を感じ、話せない状態になることです。スキルアップ定期コース(職場実習)では、洗車業務を行いました。指導者とのコミュニケーションが取れず、返事もできませんでした。実習後の振り返りでは「もう少し返事をしてほしい。安全確認もあるので今のままではここで働くのは難しい」と判断されました。その後、清掃業や製造業など様々な職種の職場見学等を行い、企業担当者の話を聞く機会を増やすなど就業意欲の涵養と職業選定の拡幅を試みました。しかし、意思疎通がうまくいかなかったため、希望職種や就労意欲を充分理解することができず、就労移行支援事業所のスタッフを交えて話し合いを重ねました。その中で、スーパーのバックヤードを経験してみたらどうかという提案がありました。C-STEPは、会員企業(スーパー)に、「場面緘黙により、事態を的確に伝えることや自分の意見を言うことが難しい状況で



あること」を事前説明したうえで、職場実習を依頼しました。店舗としては、「できることは少ないかもしれないが、まず職場実習で品出しや店の掃除からしましょう」と提案いただき、スキルアップ随時コースで職場実習を行うこととなりました。不安材料としては、Tさんには、不安やストレスを感じるとトイレに閉じこもる癖があることでした。こうした状況の下、2週間の職場実習を計画どおり終了しました。実習後の振り返りで店長は、「頑張っていましたよ。トイレに入っていたこともありましたが、長くはありません。作業も品出しや掃除は出来ていました。言葉は出ないけど、「うなずき」や表情も出てきて、私の冗談も聞いてくれました。Tさん、ここで最初、短時間から働いてみませんか?」と言ってくださいました。しかし、返事はなく、実習が良かったのか悪かったのか感想も分かりませんでした。30分くらい経過したころ、店長から「ここでは戦力になってもらいたい。自信を持ったら品出しだけでなくいろんな仕事も覚えてほしい。一度ここで私と働いてみませんか?」と言われるとTさんはその時、初めて笑顔でうなずきました。そうして、このスーパーで働くことが決まりました。

今回のケースでは、自身の頑張りに加えて、スーパーの指導の仕方、声のかけ方、励まし方等が大きなポイントとなりました。特に店長の「私と一緒に働いてほしい」という一言がやる気に繋がったのだと思います。まだ働いて2か月しか経っていませんが、元気に働いています。今では、職場スタッフのみんなが、Tさんの特性(場面緘黙)を理解し、仕事のサポートや、声掛けなどを行い支えています。

■やりたいこととできること

最後は、2021年から受託している「教育庁ハートフルオフィススーパーバイズ事業」からの就職者の紹介です。教育庁ハートフルオフィス(以下、「教育庁HO」とは、療育手帳を所持している府立学校の新卒者を対象に、非常勤作業員として最長2年間雇用し、その後一般企業等への就職を支援する事業です。C-STEPは、作業員の職場見学や職場実習を行う他、「教育庁HO」事業に対する助言や提言を行っています。

府立高等学校の自立支援コースにKさん(知的障がい者)は在籍していました。高校時代のKさんは、一般雇用をめざしてさまざまな職種で採用試験を受けましたが、面接がうまく対応できず採用に至りませんでした。そこで先生やご家庭と相談し、障がい者雇用枠で配慮を受けながら働くことに決めました。しかし、高校3年生の12月後半に決めたこともあり、企業の新卒者採用試験(障がい者対象)には間に合わず、「教育庁HO」へ2023年4月に入職しました。「教育庁HO」へ通勤する傍ら次の就職先を探すため、希望職種の選定に入りますが、自分の中でも希望職種が見えていませんでした。やりたいことは、電車の運転手や電車の整備士。しかし、その職種は難易度が高く、やりたいこととできることに乖離がありました。一方でPC能力は高く、そこを活かしていけば次の就職先も見つかるのではないかと考えました。本人とハートフルの支援員が話し合いを重ねた結果、大阪府立学校実習助手(障がい者雇用)を提案するとやる気になりました。5月から、9月の採用試験に向けて猛勉強し、見事1次試験は合格しましたが、2次の選考(適性および面接)で残念ながら不合格となりました。指導員やC-STEPが、本人との面談も行うなどケース会議で検討を行いました。なぜ不合格に

なったのか、本人にとって実習助手という仕事は本当にあったのか等々検討を重ねた結果、希望職種の変更に至りました。主因としては、人と人との関わりを重視する実習助手において、たとえ就労できたとしても苦勞するのではと考えたからです。Kさんの特性として、人の気持ちを汲み取り会話することが苦手で高校の時もそのことで苦勞したと本人から聞いたからです。

そこで、運輸業を営む会員企業から事務職の職場実習依頼があったため、運輸業の職場実習を勧めました。元来、事務能力は高いうえ「報・連・相」もできていました。また、この職場では事務作業だけでなく、品出し作業もありました。体力作業もある方が気分転換になって良いと喜んでいました。2週間の職場実習を終え、本人は充実した顔つきになっており、「ぜひともここで働きたい」と自信を持って答えました。職場からもぜひとも来てほしいと言われ5月に入社しました。「教育庁HO」に入職して1年で次の就職先が見つかりました。

これまで見てきた3名の事例で分かったことは、人材養成事業を通じて、本人の適性を見極め、意欲と能力について本人と支援者が協議を重ね、企業の協力を得ながら、時には大胆な進路の変更もいとわず、粘り強く支援することがいかに大切かということです。

これからも彼ら彼女らには多くの困難があるでしょうが、定着に向けて採用企業と関係支援機関と連携し、ともに歩んでまいります。



C-STEP事業

2024年度雇用問題研究会を開催しました

2024年10月29日(火) 14:00からJ:COM中央区民センターで2024年度雇用問題研究会を開催し、企業の人事・総務、人権啓発担当者など約60名にご参加いただきました。

2024年度雇用問題研究会 入門「ビジネスと人権-誇れる会社であるために-

① 講演「ビジネスと人権～改めて基本を理解する～」 ② ワークショップ

講師/ファシリテーター

一般財団法人アジア・太平洋人権情報センター(ヒューライツ大阪) 特任研究員 松岡秀紀さん



「ビジネスと人権」について理解を深めるため、国連の指導原則や企業の人権尊重責任などについて講演をしていただいたあと、ワークショップを通じて人権を尊重する仕事のあり方を考える大切さについて学びました。

① 講演「ビジネスと人権～改めて基本を理解する～」

- ・ビジネスと人権に関する指導原則(2011年)の背景と骨格
- ・企業での「ビジネスと人権」に関する課題
- ・企業の事業活動全体の流れと関係する人々
- ・人権デュー・ディリジェンスの仕組みと救済
- ・国内またはサプライチェーンにおいて人権への負の影響(人権リスク)が指摘されている例
- ・「第一歩」人権への負の影響の性質を特定し評価する など

② ワークショップ

4名ずつのグループに分かれて、事例(パンの製造・販売業)の事業プロセスに「どのような人(ステークホルダー)が関与しているか」、「人権課題は何か」などについて話し合いました。

まとめより

人権に負の影響を及ぼす「可能性」に気づき、仕事を「問い直す」ことのできる従業員を育てることは組織への信頼や企業価値を高めることにつながる。



<参加者の声>

- ・ワークショップでは他職種の方の意見が参考になった。考えが一つではないことがわかってよかった。
- ・人権への影響については自身の業務だけでなく、各部門との連携が必要であることに気づいた。
- ・人権への負の影響を特定・評価することや課題を見つける体験ができてよかった。など

ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

人材スキルアップ定期コース10月期「障がいのある方コース」を開催しました

10月期「障がいのある方コース」は、10月15日(火)～11月5日(火)の期間、4日間の座学と1～2週間の職場実習を体験していただきました。今回は20代～40代の方5名が参加し全員が修了しました。

前半はビジネスマナーや企業からのアドバイスなどの座学に加え、障がいのある方が活躍する企業を訪問し、職場を見学させていただきました。協力し合いながら元気に働くみなさんの様子を見て、受講生の方たちもこんな風に働きたいと就職への気持ちを新たにされていたのが印象的でした。そして後半の職場実習ではそれぞれ異なった企業・事業所で事務、配送、清掃の業務を体験させていただきました。初めての体験で不安もあったと思いますが、前半の座学・見学会で学んだことを活かして一生懸命仕事に取り組むことができました。実習を通じて「この仕事がしたい!」と気持ちを伝え、また企業からの評価も高く、その後就職が決まった方もいらっしゃいます。

ご協力いただきました会員企業の皆さま、ありがとうございました。

～ 受講生の感想(抜粋) ～

- ・人並みのビジネスマナーは一通り知っているつもりでしたが、知らないことがあり大変勉強になりました。
- ・重度の障がいのある方たちを雇用してみんなと助け合って作業をしているタツタウェルフェアサービスさんの見学をして、私もこういう会社で働きたいと思いました。またお金の管理(ライフプランの立て方)など教えてもらいすごく感謝しています。
- ・清水建設さんからの話を聴いて、めげず、あきらめず、これからも挑戦していきたいと思いました。
- ・象印マホービンさんからのアドバイスにとても得るものがありました。自己理解がより深まりました。
- ・座学と実習をふり返ってとても勉強になったと思います。実習ではとても話しやすい雰囲気だったので分からないことも訊きやすく、しっかり働いていると良い評価をいただきました。



「企業からのアドバイスの様子」



「職場実習の様子」

日 時	午 前	午 後
10月15日(火)	オリエンテーション、自己紹介	ビジネスマナー①
10月16日(水)	ビジネスマナー②	ビジネスマナー③ 「実習先企業と面談」
10月17日(木)	企業見学会 タツタ ウェルフェアサービス(株) ※タツタ電線(株)のグループ会社	企業からのアドバイス 講師: 清水建設(株)、象印マホービン(株)
10月18日(金)	履歴書の書き方・面接の受け方 講師: 大阪労働局	ライフプランの立て方
10月21日(月)～11月1日(金)	職場実習: 事務職、配送業、清掃業	
11月5日(火)	ふり返り感想会、修了式	

人材スキルアップ定期コース 2月期「企業見学」コースのご案内

日 時: 2025年2月3日(月)～2月7日(金)

場 所: エルおおさか(大阪府立労働センター)および見学先企業

内 容: 企業見学(2社予定)、ビジネスマナー講座、履歴書の書き方、働くイメージ作り、就職チャレンジ計画、企業からのアドバイス

参 加 費: 無 料 (交通費支給・保険加入あり)

◆受講を希望される方は、お住まいの市町村の地域就労支援センターにご相談ください。

「きしわだ障害者就職模擬面接会」を開催しました

2024年11月6日、opsol(おぷそる)福祉総合センターにて「きしわだ障害者就職模擬面接会」(主催:岸和田市、企画運営:C-STEP)を開催しました。

今回は10代～30代と若い層の方9名が参加されました(10代1名、20代5名、30代3名)。模擬面接と言ってもご本人たちにとっては本番と同じ。緊張感あふれるなか、入室～退室までを体験していただきました。進め方は3名ずつ3つのグループに分かれ、他の方が面接を受けているときもその方の回答を参考にし、自分ならどう答えるか考えていただきます。その後、講師とともに面接をふり返り、改善のポイントをお話させていただきました。

模擬面接会で感じたことは、みなさん緊張はされていますが、面接官の質問に対ししっかりと自分の言葉で回答されていること。そして実際に仕事を体験させていただければ、充分就労可能だと思われる方が多くいらっしゃったということです。皆さんの企業・事業所でも障がいのある方の職場実習受け入れを進めてみませんか。C-STEPがお手伝いいたします。

【参加者の感想より抜粋】

- ・面接での課題点を教えていただき、加えてポイントリストをいただくことができ良かった。
- ・実際の面接に慣れるためにも役に立ちました。さらに助言をくれるのはありがたいです。
- ・緊張したけど頑張りました。
- ・初めて参加して自分のたりないところがあったので今後に生かしていきたいです。
- ・貴重な経験をさせていただきました。アドバイスを踏まえ、もう一度面接を受けたいと思いました。



就職者の声

栗本商事株式会社 Tさん

今号では、高等専修学校を卒業後、就労移行支援事業所へ通所されていたTさん(療育手帳B1)が職場実習を経て栗本商事株式会社に就職し、現在も頑張っている様子をご紹介します。Tさんと上司の方にお話を伺いました。

プラモデルを作るのが好きで組み立てなど、軽作業の仕事を希望されていたTさん。栗本商事株式会社から実習受け入れのお話をいただき、守口事業所でバルブ組立作業(製造)の実習をさせていただくことになりました。初めての实習では緊張もあり、終了後のふり返りでも自信が持てなかった様子でしたが、二度目の挑戦を快くお引き受けくださり、見事就職することができました。

◆実習をやってみてどうでしたか？

最初はとても緊張しました。一日立ちっぱなしでしんどかったけど、椅子を置いて時々休憩させてくれたので良かったです。バルブの組み立ての順番が難しかったけど、作業は楽しかったです。こんな仕事がしたいと思いました。でも自信がなくて実習後のふり返りでは「やりたくない」と言っていました。2回目の実習では通勤も仕事もだいぶ慣れて、ここで働きたいと思いました。

[担当者]初めてで緊張はしていたと思いますが、職場にとけ込むのは早かったですよ。キャラもいい(笑)。こちらも初めての実習受け入れでどのようにしたらよいかと思いましたが、Tさんは素直で指示したことも責任をもってやってくれました。口数は少なく自分から話す方ではないが、話しかけるとニコニコと答えてくれますし、勤怠もよく真面目に頑張ってくれたので、あとは本人の働きたいという気持ちだと思います。

◆現在の仕事内容は？働いてみてどうですか？

バルブの組み立てをしています(ここでTさん、難しい品番もすらすらと)。組み立ての工程には部品を拭いてきれいにしたり、磨いたり、ハンコを押したりする作業もあります。そして順番に組み立てます。できることも増えてきたかな。一日ずっと同じ組み立てではなくいろんな種類のバルブがあります。やることを書いてくれるのでわかりやすいです。



[担当者]基本はだいたい覚えていると思います。細かい作業もあるので、毎日、製品名や工程を書いて徐々に覚えてもらうようにしています。Tさんはプラモデルが好きだけあってのみ込みが速い!やり方を見せるとできます。見てインプットする能力が高い。そして徐々にスピードをつけています。また、実習のときには「重い」と運ばなかった製品ケースも、今では上に積み上げいってくれます。

〔筆者:仕事に対する責任感、定着支援でお伺いするたびに増していると感じます。〕

KURIMOTO モノづくりで未来を創る、クリモト

栗本商事株式会社は栗本グループの関係会社として昭和27年(1952年)に創業。水道設備機器や農下水道用管、空調関連資材などの商品の提供を行っています。



◆今後の目標、これから頑張りたいと思っていることはありますか？

今やっている仕事で一番好きなのはスーパー止水栓(最も複雑で工程数の多い作業)。これからもっと難しい組み立てに挑戦したいです!

[担当者]おお~すごい!今でもけっこう工程数の多いこともやってもらっています。頼もしいです。この調子で働き続けてほしいですね。

この製品が何のために使われているかを知ってもらえるようになったらもっとおもしろくなると思います。まずは自分で使う部品を各棚から取り寄せ、段取りをできるようになること。そしてゆくゆくは製品完成までできる人材になってほしいと願っています。

〔筆者:職場からの大きな期待と応援メッセージをいただきました。取材中も和気あいあいとした雰囲気に入れられ、職場の皆さんとの関係が良好で働きやすい職場であることが伺えました。ご協力いただきました栗本商事の皆さま、ありがとうございます。〕



編集・発行

一般社団法人 おおさか人材雇用開発人権センター (C-STEP)
〒540-0028 大阪市中央区常盤町1丁目3-8
中央大通 FNビル 14階
tel.06-6940-6600 fax.06-6910-6033
URL(ホームページ) <https://www.c-step.or.jp>